

## 授業展開案 高等学校英語「コミュニケーション英語Ⅰ」

## 1 テーマ

自分の考えを伝える・関係代名詞

## 2 I C T 利活用のねらい

関係代名詞の文について、言語の使用場面を提示し、用法を理解させる。また、スライドで文法のポイントを簡潔に提示して、画像を用いた自己表現活動へつなげる。

## 3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板，学習者用端末

②教材：「関係代名詞」(Microsoft PowerPoint)

## 4 I C T 利活用の場面

学習内容	I C T 利活用の場面
<p>前時の本文の内容の振り返り</p> <p>言語の働きについての導入</p> <p>表現の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の使用場面を意識させながらターゲット・センテンスを定着させる。</li> </ul> <p>表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストに合う内容を英語で表現する。</li> <li>・学習者用端末に画像を提示して自分の持ち物や友達についてペアで紹介し合う。</li> </ul>	<p>①説明の補助：ダイアログの提示。文字を提示する前に J T E と A L T でダイアログを実演するか動画で提示する等して、音声による導入を行う。</p> <p>②説明の補助：ダイアログに出てきた文を使い、言語の使用場面を意識させながら文法説明を簡潔に行う。</p> <p>③表現活動：電子黒板にイラストを提示して、ターゲット・センテンスを使った文を作らせる。その後、ペアで自分の持ち物や友達について伝え合う活動につなげる。相手の言った内容に対し、聞き手は質問やコメントをしてやりとりを続けることを促す。学習者用端末で前もって撮影をしておくか、次時の課題として画像を準備させておく。</p>

## 5 ICT利活用のポイント

### ①説明の補助(図1)

教師がALTとダイアログを演じながら、例文を提示する。ALTが不在の場合は前もって録画をしておく、繰り返し使用ができる。例のように生徒にとって身近な内容のダイアログを考えて、教師が演じることで、生徒の興味・関心を喚起する。文字を提示する前に、生徒とダイアログの内容を簡単に確認する。

O: Mr. Miyanishi, the book which you lent me last week was very interesting. Do you have any more books which are written by the same writer?  
 M: I'm glad you like it. I'm sorry this is the only book that I have. But there are some in the school library.  
 O: Thank you for telling me.

(two days later)  
 M: Hello, Osamu. You are absorbed in reading, aren't you?  
 O: Hello, Mr. Miyanishi. I have come to like reading after I read the book you lent me. I think the writer who wrote the book is genius.  
 M: I like the writer, too.

図1 ダイアログの例

### ②説明の補助(図2)

ダイアログの例文を提示する。生徒にとって身近な例文を提示する。生徒の言語活動の時間を確保するために、教師の文法説明はあまり長くないようにする。また、スライドの内容を生徒のプリントに記載しておく、ノートに書き写す時間を短縮することができる。

文法のポイント 関係代名詞

**The book [ which you lent me last week ]**  
 名詞(先行詞) 前の名詞(先行詞)を修飾

先週あなたが私に貸してくれた 本

**was very interesting.**


はとてもおもしろかった。

図2 スライドを用いた文法説明

### ③表現活動(図3)

スライドのイラストを参考に英語で表現の練習を行った後で、自分のことについてペアでコミュニケーション活動を行う。ここでは学習者用端末上に自分の持ち物や友達等の画像を提示して相手に紹介をする、あるいはインターネットで画像を検索して使用することも考えられる。“Show and tell”のような活動であるが、なるべくターゲット・センテンス(関係代名詞の文)を使って表現することを促す。

聞き手にはコメントや質問、確認や聞きかえし等を行うように指導して、ペアでの意味のやりとりが続くようにする。はじめのうちは聞き手に対してこれらの表現を電子黒板にあらかじめ提示しておき、自分の感想に近いものや質問したいと思う内容を選ばせるようにする。電子黒板で提示をするようにしておくと、他のコミュニケーション活動の際にも繰り返し使うことができる。また、これらの表現が定着してきたら、これ以外に生徒が言いたいと思った表現を尋ね、追加をしていく。

**Good Listener's Box** 

(驚き, 賞賛, 同意)

**Really? Wow! That's interesting.**  
**Good! I didn't know that. Me too.**  
 (確認する)

**Pardon? Could you say it again?**  
 (話題をふくらませる質問)

**what, which, when, who, why, how ?**

図3 聞き手が使う表現を提示